

ネコを飼うこと

～室内飼育のススメ～

屋外で暮らすネコと、家の中で暮らすネコ。どちらもありふれた風景ですが、ネコも人も安心して暮らせる環境はどちらでしょうか？

ネコを飼うことについて考えてみましょう。



対馬市ネコ適正飼養条例など、ネコの適正飼養に関する情報はこちらもご確認ください。

人間の暮らしの傍にいた存在「ネコ」

2004年、地中海に浮かぶキプロス島にあるシルロカンボス遺跡から、男性と共に埋葬されたネコの遺骨が発見されました。それにより、今から約9500年前には、人間に食事などの世話をされる家畜としてのネコ「イエネコ」が誕生していたと考えられています。

農耕文化が発展した、約6000年前のエジプトでは、穀物を荒らすネズミなどを駆除するためイエネコが活躍し、パートナーとしての地位を確かなものにしたことが分かっています。

日本へは、約2000年前に人と一緒に海を渡ってきたとされ、恵岐市にあるカラカミ遺跡で発掘されたネコの骨が、日本最古のイエネコであるとされています。稲作の伝来とともに、収穫した穀物を守るために日本に入ってきたネコたちは、日本でも、人間の重要なパートナーとなったのです。



出土したネコの骨。古代人にとってネコは、大切な収穫物を守る心強い存在だった

Point!

現在、私たちが目にするネコは、人が介在して世界中に広げた存在であり、ペット（愛玩動物）として飼うことが自然な存在です。

野外で生きるネコは危険がたくさん

対馬でも、港や路地でネコをよく見かけます。自由気ままに動き回る姿を見ると、野外は、ネコにとって良い環境のように思えますが、実は命を危険に晒しているのと同じことで、とても暮らしにくい過酷な環境と言えます。

気候や食事のストレス

寒いときに過ごす場所を探したり、暑さをしのぐために少しでも涼しい場所を見つけたりすることはとても大変です。突然の雨に濡れることもあり、寒い時期にはそれがきっかけで病気になってしまうことも考えられます。



交通事故

交通事故は、多くの野生生物にとって影響が大きくネコにとっても無関係ではありません。令和4年度の対馬振興局による調査では、年間84頭のネコが交通事故で命を落としています。



他のネコとのケンカや感染症

縄張り意識が強いネコは、それが原因でケンカをし、傷つけたり傷ついたりします。そのことにより命の危険にさらされたり、感染症にかかってしまうリスクがあります。



Point!

家で飼われているネコが10年以上も生きることが多いのに対し、野外で生活するネコは、数年しか生きられないことも少なくありません。

外で暮らしていることで、人間にも影響が…

対馬市が大正大学と連携して行ったアンケートでは、回答者の半数以上にのぼる64%の人が、外で自由になっているネコによる何らかの被害を受けていると回答しています。

内訳は、ふん尿の被害が84%で最も大きく、ほかには「鳴き声がうるさい」「庭や家に侵入し荒らされる」などといったものでした。これは、ノラネコだけの問題ではなく、家の外や中を自由に行き来している飼いネコも、周囲へ大きな影響を及ぼすことを表しています。



ネコにも、人間にも恐ろしい問題

近年、イノシシやシカの増加による自然環境の変化が、対馬で大きな問題となっています。イノシシやシカに付着したマダニを介して感染する病気のうち、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、人はもちろん、イヌやネコにも感染し、感染した場合、人間では6%～30%が、ネコでは約65%が死に至るとされる恐ろしい病気です。対馬では、死亡例はありませんが、人への感染が報告されており、注意が必要です。



ダニが人間へ
向かうイメージ

公園や道路沿いの草原にもダニは生息している可能性があるため注意が必要です

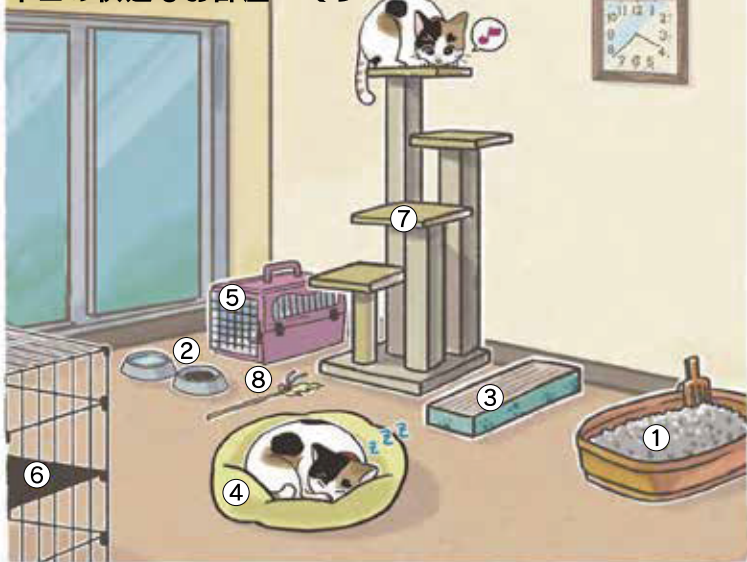
Point!

これらの問題は、外で暮らすノラネコだけのものではありません。皆さんが飼っているネコでも、外に出る機会があれば、問題の原因となり得るのです。

ネコにも人にも自然にもやさしい環境とは・・・「室内で飼うこと」

飼いネコを危険から守り、人にも安全な環境を作るために必要なことのうち、最も大きなものが「室内で飼うこと」です。近年、国の基準でも、ネコの室内飼育が求められています。

ネコの快適なお部屋づくり



★用意するネコ用品

- ①ネコ用トイレ、ネコ砂
1匹につき1つは用意しましょう。
- ②エサ入れ、水入れ
- ③爪とぎ
爪とぎは本能的な行動です。爪をといて良い環境を与えてあげましょう。
- ④ベッド
- ⑤キャリーケース
通院や引っ越し、災害などでの避難時に必要です。

島内のお店でも
購入できます。

★あればもっと快適グッズ

- ⑥ケージ：お掃除や来客時に入れて安心。
- ⑦キャットタワー：室内でも運動できます。
- ⑧おもちゃ：一緒に遊べて楽しいです。

屋内で飼育している方にお話を聞いてみました



阿比留 かおりさん（豊玉町在住）と
ネコのミュー・イヌのルコ

自分のお気に入りの場所を探し出し、安全な家の中で過ごしています。室内でも、キャットタワーやケージを工夫して高さを上手く使うなど、十分居場所を作ることができます。言葉を発さない動物のキモチに寄り添うため、動物を飼う時には、習性を理解し、動物について学びながら実践する必要があります。

ネコを始め動物を飼う人は、人間がお世話をしなければ、生きていけない存在だということを第一に考えて動物たちと接することが大事だと思います。

ネコとイヌを飼っています。出会って9年ほどになるネコのミューは、当時ケガをしていて、家に来ていたことをきっかけにそのまま飼い始めました。イヌのルコは、トラバサみに足を挟まれ逃げ回っていた状態で保護し、脚を切断する手術を経て8年になります。

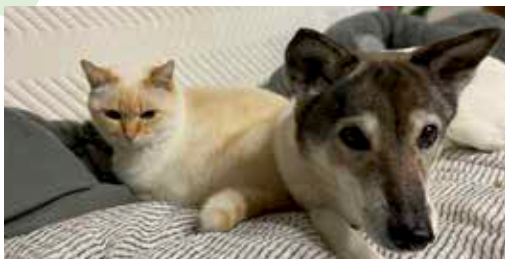
動物を飼っていると、長い間留守ができなかつたり、お金も、エサ代だったり、病気になれば治療費がかかるなど、大変なことはいろいろとあります。しかし、想像しない動きをして驚いたり、甘えてくる姿に癒されたりしてとても楽しく過ごしています。

ミューは飼い始めた時からずっと室内ですが、外に出さないことが問題になることは全くありません。自



高さを活用して居場所を作る

人間の無自覚と思い込みが、動物たちを苦しめてしまいます



毛繕いをするなど仲良しな2匹

「ネコは外で自由に動き回ることが幸せ」「エサをあげないとかわいそう」。島の中で見かけるネコたちや、飼いネコとして家族の一員となったネコに対し、そのような感情を持つことはありませんか？ネコにとって外の世界は、とても厳しい世界で、常に死のリスクにさらされています。例えば、港にネコがいて、漁師さんから魚をもらったりする風景は、さも当たり前でノスタルジックな風景ですが、もしもその魚が釣り針を飲み込んでいたら、その魚を食べたネコは、大変なことになるかもしれません。お腹を空かせてかわいそうだと、外で暮らすネコ

たちにご飯を食べさせたら、食べ過ぎて体調を崩すかもしれません。人間からエサをもらえろと思い、民家に侵入し赤ちゃんを傷つけるかもしれません。飼いネコであっても、外の世界が気持ちいいからと、飼っているネコを外に出せば、縄張り争いに巻き込まれたり、交通事故に遭ってしまうかもしれません。無自覚な人間の行動が、ネコの命を縮めてしまったり、本来人間に愛される存在のネコが憎悪の対象になったりと、結果的にネコを追い詰めてしまうことにつながってしまうのです。それこそかわいそうなことです。

私たちがネコにできることがあるとすれば、中途半端に関わることをやめることです。飼えないのであれば、静かに見守るべきですし、ネコを飼うのであれば、最期の瞬間まで寄り添う覚悟を持つことです。それが、ネコたちにとっての幸せにつながるのではないのでしょうか。



対馬市獣医師会 森 寛士会長

対馬市では、ネコ適正飼養条例などを通じ、ネコと市民が安心して暮らせる街を目指して、これからも取り組みを続けていきます。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ 自然共生課 ☎0920(53)6111